

C-19 マタニティドレス用原型に関する研究

日本セク家政・樋口ゆき子・島根大教育・正印美那子・日本セク家政○茂手木聰子

目的 婦人は妊娠時において、体型が平常時より著しく変化するので、妊娠時にはマタニティドレスを必要とする。したがって、マタニティドレスの原型は平常時用いている原型とは異なったものを必要とするのではないかと考えられる。そこで、マタニティドレス用人台および原型作製のために妊娠時の婦人の体型を研究した。

方法 ○資料は昭和43年6～11月に東京都内の20～30才の初産婦の妊娠月数7～10か月の実測値である。測定は各月6名の追跡測定をした。

○測定項目は、各部位の周径、長径、横径、矢状径および肩角度である。
○横断体型および縦断体型を測定して10か月の人台を製作し、立体裁断によるマタニティ用原型を作製した。

結果 ○妊娠期間中は、背面よりも前面の体型変化が大きい。部位別に見れば、特に下部胸囲より7cm下、臍点および前上腸棘点の変化が著しい。そしてまた、平常時と比較し、厚径および肩長において著しい変化が見られた。

○マタニティ用原型は、特殊体型として腹部の小くらみ量とゆるみの分量を補うために、測定点として前上腸棘点を考慮しなければならないことがわかった。